

## 高齢者の移動手段確保と交通安全の両立について

たんたん班 学籍番号:C1250585 氏名:太田絢斗

A) 他チームの発表を聞き、自分たちのチームにはなかった解決策や表現方法として参考になったのは、オムライス班とIKT班であった。

オムライス班の発表では、スライドの題名を「レインボーロード」とすることで、発表内容を説明する前に聞き手の興味や関心を引きつけていた点が印象的であった。都市や交通といった専門的で硬いテーマであっても、印象に残るタイトルを用いることで発表の全体像を想像しやすくなり、結果として内容理解が深まっていた。自チームの発表では、内容説明を重視するあまり導入部分の工夫が不足していたため、この点は大いに参考になった。

また、IKT班の発表では、スライド上の言葉が必要最低限に抑えられており、重要なポイントが一目で分かる構成になっていた。そのため、聞き手は視覚情報に惑わされることなく、発表者の説明に集中しやすかった。情報量をあえて減らすことで要点を明確にするという姿勢は、自チームには欠けていた点である。これらの発表を通して、内容だけでなく、伝え方や構成の工夫が理解のしやすさに大きく影響することを学んだ。

B) 自分たちのチームでは、地方都市における交通問題の一つとして、高齢者の免許返納問題を取り上げた。問題の原因として、公共交通機関の不足、生活に自動車が必要な都市構造、高齢化の進行、運転能力の個人差を考えていた。しかし、他チームの発表を踏まえることで、これらに加えて「制度の伝え方」や「段階的な選択肢の重要性」にも目を向ける必要があると考えようになった。

地方都市では、高齢者による交通事故のリスクを下げる必要がある一方で、免許を返納することで日常生活が困難になるという問題がある。そのため、「安全の確保」と「生活の維持」という二つの目的が対立しやすい状況にある。この対立を解消するためには、免許返納か継続かという二択ではなく、段階的に移行できる制度を整えることが重要である。

そこで有効だと考えられるのが、制限付き運転の導入である。制限付き運転とは、運転可能な時間帯や走行エリア、速度などを限定することで、事故のリスクを抑えながら必要最低限の移動を可能にする仕組みである。この制度は、高齢者の運転能力の個人差を考慮できる点で、一律の免許返納よりも現実的な対応であるといえる。

ここで、オムライス班の発表から学んだ「興味や関心を引く工夫」が重要になる。免許返納は否定的に受け取られがちであるが、制限付き運転を「安全に運転を続けるための制度」として前向きに示すことで、高齢者自身が主体的に制度を受け入れやすくなる。制度の名称や説明方法を工夫することは、政策の受容性を高める上で重要である。

また、IKT班の発表から学んだように、課題や解決策を整理し、要点を明確にする姿勢も欠かせない。高齢者の免許返納問題は、「事故防止」「移動手段の確保」「将来的な返納への移行」という三つの視点から整理できる。制限付き運転は、この三点を同時に満たす中間的な施策として位置づけることができる。

さらに、制限付き運転だけでなく、公共交通や地域交通との連携も重要である。授業で学んだデマンド交通やコミュニティバスを充実させることで、高齢者が自動車以外の移動手段に慣れる機会を提供でき、将来的に免許を完全に返納する際の不安を軽減できると考える。

以上のことから、地方都市における交通問題を総合的に解決するためには、段階的な制度設計、分かりやすい伝え方、そして公共交通との連携が重要である。高齢者が安全性と生活の両方を確保しながら移動手段を選択できる環境を整えることが、持続可能な地方都市の交通につながると考える。

採点結果返却希望

aoayayo1@icloud.com